



働き方改革事例集が公開されました！

岡山県マスコット「ももっち」

Pick Up!

全国の学校における

働き方改革事例集 (令和5年3月改訂版)

今回は、文部科学省が令和5年3月にとりまとめ、公開した「全国の学校における働き方改革事例集 (令和5年3月改訂版)」について紹介します。主に追加された項目は次の3つです。



(詳細はこちら)

- 働き方改革チェックシート
- 学校・保護者等間の連絡手段のデジタル化導入のポイント
- 個別事例から見る事務職員による学校の働き方改革

この他にも、「働き方改革通信No.38」でも紹介したように、「明日からできるグループウェア活用法」の中に、欠席連絡のデジタル化なども紹介されており、実際のGoogleフォームのファイル等をダウンロードすることも可能です。



働き方改革チェックシート

学校の働き方改革の推進に向けて、各学校において取組状況を把握するとともに、異なる取組の検討や振り返りに活用できるチェックシートになっています。



※Excelファイルのダウンロードはこちら

① 項目名・内容

② 学校・教師が担う業務に係る3分類

- ①基本的には学校以外が担うべき業務
- ②学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務
- ③教師の業務だが、負担軽減が可能な業務に分類して表示しています。

No.	項目	内容 (教育委員会との調整が必要な内容も含みます。)	学校・教師が担う業務に係る3分類	チェック欄		
				年度当初	年度途中	年度末
1	朝の活動	欠席・遅刻連絡等をWebアンケートフォーム等を活用してデジタル化している。	-	未対応	着手中	完了
2	授業	教職員の勤務時間を考慮した時間割や定期テスト、学期の区分の見直しなど、教育課程の編成上の工夫等に関する取組をしている。	③教師の業務だが、負担軽減が可能な業務			

③ チェック欄

年度当初/途中/年度末の、各取組への対応状況(完了/着手中/未対応)を入力します。エクセル版では、入力した「完了」の数の合計が合計欄に表示されます。

④ 備考

振り返り、検討内容等、自校の状況について記載することができます。

⑤ 取組例

本事例集の該当頁や取組事例に関連する資料へのリンクがある場合に記載しています。

備考 (振り返り、検討内容等)	取組例 (文字をクリックすると働き方改革事例集等の該当ページが開きます)
欠席・遅刻連絡から導入を開始、10月より、アンケート、お便りをデジタル化	Webアンケートフォームを活用し、職員室外でも、PCで保護者からの欠席連絡を確認できるようにした。 職員会議を行う日は6限をカットし、短縮授業を実施した。 午前中を5時間制にして、下校時間を早めた。 週3日の5時間制を導入し、教師の放課後の業務時間の確保及び早期退勤を実現した。 校務分掌を、経験者と若手の2人担当とした。 各主任の負担軽減を図るため、その他の業務を他の教師に分散し、負担の公平化を図った。



保護者への文書のデジタル化！

岡山県マスコット「ももっち」

今回は、学校・保護者間の連絡手段のデジタル化で、業務の効率化を図っている学校を紹介します。

Pick Up!

県立高梁高校の実践

高梁高校では、昨年度までメール配信システムを活用して、簡易な保護者への連絡を行っていましたが、今年1月からの試行を経て、今年度から保護者連絡システムを本格導入し、保護者への文書のデジタル化に取り組んでいます。

- システム使用料は学校全体で年間12万円
- 保護者は、専用アプリによりスマートフォンで利用可能(メールでの利用も可能)
- 保護者の登録作業は、業者からのテンプレートを活用して、保護者が行うため、基本的には学校の作業は不要
- 欠席連絡機能があるため、欠席連絡のデジタル化にも対応
- アンケート配信機能があり、進路説明会などの簡易な出欠確認等が可能
- システム導入検討の際には、PTAにも事前に相談

学校のパソコン上の管理画面(欠席連絡) ➡

学校のメリット

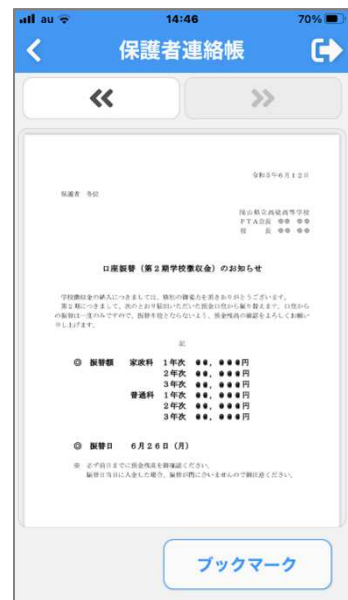
- ・ 印刷業務、仕分け業務の大幅な削減
- ・ 用紙代、インク代等の節減
- ・ 生徒への配付の手間、時間の削減
- ・ 保護者の開封確認が可能
- ・ 配付対象の個別設定が可能
- ・ 朝の電話対応の時間の大幅な削減

保護者のメリット

- ・ 専用アプリに学校からの連絡のみ整理されていて見やすい
- ・ 過去の学校からの連絡内容もいつでも確認が可能
- ・ 外出先などどこでも確認が可能
- ・ プッシュ通知により、学校からの連絡の見落としの心配がない
- ・ 生徒の渡し忘れや紛失の心配がない
- ・ 学校の留守番電話の時間帯を気にすることなく、欠席連絡が可能

配信状態	学年	組	番号	氏名	出欠区分	出欠理由	連絡日	送信時間	期間
未	2年	組	番号		病欠	その他	2023/06/21	06:27	2023/06/21~2023/06/21

保護者のスマートフォン上のアプリ画面





自ら考え行動する児童生徒を育てる!

岡山県マスコット「ももっち」

今回は、学校教育目標「**自ら考え行動する**」のもと、**自律した学習者の育成**を目指した取組を進めた結果、教職員の働き方改革にもつながっている学校を紹介します。

Pick Up!

矢掛町立**矢掛中学校**の実践

矢掛中学校では、チームで進めるカリキュラム・マネジメントによって、自律した学習者を育成するため、今年度から学校全体で、**準備学習**、**単元テスト**、**5時下校**に取り組んでいます。

準備学習

全生徒共通の**定型的な課題を廃止**し、生徒が見通しや興味をもって授業に取り組むために、事前に準備して授業に臨む予習型の課題（準備学習と呼んでいる）を設定。

- ★生徒は準備学習で疑問に思ったことを授業で理解できる。
- ★準備学習を授業での協働学習につなぐ取組が進んだ。

単元テスト

定期テストを廃止し、単元のまとまりごとに行う単元テストを実施。

単元ごとの流れを優先するため、日程は統一せずクラスごとに実施しているが、希望者には「再テスト」を実施し、再テストを受けた生徒は、その点数を評価の対象としている。

- ★単元テストは、生徒が自らの学習を振り返ったり、教員が指導の改善にいかしたりするために有効である。
- ★教員は単元への意識が高まり、これまで以上に明確に単元計画を生徒に示すようになった。

5時下校

生徒の家庭学習の時間を十分に確保し、計画的に学習を進めることができるよう、年間を通して、**平日の最終下校時刻を午後5時**とした。

部活動の時間を確保するため、朝読書の時間の廃止など、**日課表の見直し**を行い、帰りの会の終了時刻を20分早めた。

- ★生徒は家庭学習の時間の確保に加え、習い事や家庭のことにかける時間の確保にもつながっている。
- ★教員は教材研究等の時間の確保や時間外在校等時間の縮減につながっている。

生徒アンケートでは、**8割以上の生徒がこれらの取組に肯定的な回答**をしています。

学校運営協議会等も有効に活用

矢掛中学校では、6月に実施した**学校運営協議会**の中で、準備学習、単元テスト、5時下校の取組について議題として取り上げた。**生徒もオブザーバーとして参加**し、準備学習、単元テスト、5時下校の3グループに分かれて委員と熟議を行った。

委員から取組に対する地域からの不安の声などの情報提供もあったが、協議会を通して、「新しい取組が効果的であることがよく分かった」等の意見が得られた。

矢掛中学校では、これまでも生徒や保護者に直接周知するだけでなく、**地元のケーブルテレビ等を通じた情報発信**もしてきたが、地域の不安を解消するため、一層の情報発信を続けていく必要があると考えている。



岡山県マスコット「うらっち」

取組事例等を参考に業務の見直しを!

昨年12月、文部科学省が「令和5年度教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査結果」(以下「文科省調査結果」という。)を公表しました。今回は、その中で示された取組事例等を紹介いたします。

Pick Up!

文科省調査結果で紹介された取組事例

文科省調査結果では、「学校・教師が担う業務に係る3分類」に基づく14の取組のうち、各教育委員会が優先的に取り組むとの回答が多かった項目について、各教育委員会または各学校における具体的な取組事例が紹介されています。

例えば、右に示す和気町立和気小学校、佐伯小学校、本荘小学校の「登校時刻の見直し」の事例(p.12)があります。

本事例は、町教委と学校が協力し、学校運営協議会等を通して、保護者の理解を得た事例です。

この他にも、次のような事例等が紹介されています。

- 部活動の活動時間の見直し(p.16)
- 教材等のデータでの蓄積と活用(p.17)
- 通知表の所見欄の見直し(p.18)

各学校におかれましては、これらの事例等も参考に、来年度に向けて、更なる業務の見直しについてご検討ください。

「文科省調査結果」はこちら



「学校・教師が担う業務に係る3分類」はこちら

「全国の学校における働き方改革事例集」等も参考に!...

働き方改革通信No.44でも紹介しましたが、業務の見直しをする上で、上記事例集も参考になります。

紹介されている事例の例

- 事務職員による働き方改革(p.16)
- 長期休業中の職員日直廃止(p.100)
- 校外学習の一連の流れのチェックリスト化(p.102)
- グループ担任制の導入(p.133)
- 行事予定や教室・備品のクラウドでの使用予約管理(p.183)

あわせて、県教委作成の本通信バックナンバーの一覧もご活用ください。



3 (3) 取組事例 - 登下校に関する対応に係る取組事例 -

登校時刻の見直し

(岡山県和気町立和気小学校、佐伯小学校、本荘小学校)

もともと教師の勤務時間前から児童が登校をしてきていたことが課題であったが、町教委のイニシアティブによって、町内一斉に児童の登校時刻を8時頃に統一。本荘小学校では、従来教師が担っていた登校指導も、PTAや学校運営協議会と協議し、教師が行わないこととした。

どのような課題がありましたか?



- 先生: 子供たちの安全面を考慮し、担任等は7:20には出勤をしていました。登校指導がある日にはさらに早く出勤をしなければならず、大きな負担を感じていました。

登校時刻を見直したことでどんな成果がありましたか?



- 校長先生: 先生方の出勤時刻に変化があり、1日10分以上ゆとりをもって出勤できるようになりました。
例: 本荘小 R4:7:50→R5:8:01 (11分改善し8時台に)

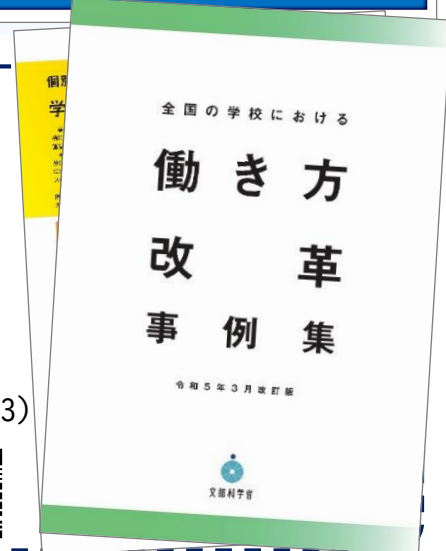


- 先生: 朝の時間にゆとりができ、登校指導も地域の方に行っていただけで、授業準備や教室で児童を迎える時間に充てることができました。

取組を始める際、反発などはありましたか?



- 校長先生: 保護者の方からのご意見が心配でしたが、PTAや学校運営協議会と丁寧に協議をしたことや、町内一斉にスタートしたことによって、保護者にとっても受け入れやすかったのだと思いました。





校務のデジタル化の振り返りと改善を!

岡山県マスコット「ももっち」

今回は、各学校において、校務のデジタル化の状況を振り返り、改善を図っていく上で活用できるチェックリスト等について紹介します。

Pick Up!

校務DX化チェックリストの活用

右に示しているのは、昨年12月、文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の一部です。



※資料はこちら

本チェックリストは、**教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目**を次に示す内容ごとに整理したものです。

● 教員と保護者間の連絡のデジタル化（8項目）

● 教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化（7項目）

例 宿題をクラウドサービスやデジタルドリル教材を用いて実施・採点していますか

● 学校内の連絡のデジタル化（14項目）

例 校内外の行事日程、施設や特別教室の利用予約等について、クラウドサービスを使って共有し、いつでも確認できるようにしていますか

● その他（5項目）

※チェックリストの項目内容はこちら



本チェックリストは、小・中学校段階を対象としたものですが、高校段階を含め、各学校において、校務のデジタル化の状況を振り返るために活用し、未実施の項目等について、改善に向けた検討をお願いします。

「働き方改革に関する取組状況調査」の振り返りも!

「校務DX化チェックリスト」の他に、各学校の働き方改革の取組状況を振り返り、改善を図るために、令和5年9月14日付け、教評第474号で依頼した働き方改革に関する取組状況調査の内容もご活用ください。こちらについても未実施の項目等について、改善に向けた検討をお願いします。

項目内容の例

- 管理職は教職員の時間外業務の実態を適切に把握し、必要に応じて担当業務の持ち替え等により、業務の平準化等を図っている。
- 保護者や地域関係者等に対して、県教育委員会が作成した動画やチラシを活用するなどして、学校における働き方改革に関する理解と協力をお願いしている。

